

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の自己有用感、挨拶、マナー、コミュニケーション能力、職業観等の向上（学校教育自己診断） ・ ボランティア活動に対する意識の向上 ・ 中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上
計画名	職業体験による「啓発プロジェクト」

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化</p> <p>(2) 特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒の自己有用感を醸成するとともに集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>ア 生徒会行事、生徒の自主活動、ボランティア活動や地域連携活動の継続、発展をめざす。</p> <p>※ 地域・企業等と連携した「ゆめ・チャレ」等の就労体験活動のさらなる発展充実、参画企業と動員生徒を毎年5%拡張</p>
事業目標	<p>本校生徒に自信を持たせ、コミュニケーション能力を身につけさせる。また、基本的な生活習慣を身につけさせ、進級・卒業率を上げることや、中途退学率を減らす必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統地場産業を学び、「ものづくり」を通じて地域に誇りを持ち、自分にも誇りを持つ。 ・ 地場産業を通して学校外で様々な職業体験をし、基本的な生活習慣を身につけ、コミュニケーション能力等をつける。 ・ 単なるインターンシップではなく、職業体験を通じて地域企業と生徒が、啓発活動に用いる様々な「啓発グッズ」を製作し、成果物を配布して「あいさつ運動」や「特殊詐欺防止」、「G20 大阪サミット交通総量抑制」、「AED 使用ついて」、「献血」等の啓発活動をおこなう。 ・ ボランティア活動に積極的に参加し、他者から感謝されることにより自己有用感を持つ。 ・ 全国の定時制高校のモデル校を目指し、定時制高校の存在意義をこれまで以上に高める。
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 啓発活動配布用外装パッケージ式 ・ 啓発活動配布用「線香」 ・ 啓発活動配布用「蜻蛉玉」 ・ 啓発活動配布用「ネックレス・香立て」 ・ 啓発活動配布用「注染てぬぐい・和雑貨」 ・ 啓発活動配布用「サシェ（匂い袋）」 ・ 啓発活動配布用「木彫り品」
取組みの 主担・実施者	<p>プロジェクトリーダー：首席（進路指導主事兼任・学校設定教科「堺学」主担）</p> <p>啓発プロジェクト企画・運営：企画委員及び学校設定教科「堺学」担当教員</p> <p>職業体験及び地域（自治会・小中学校等）との連携推進：進路指導部</p> <p>生徒に対する諸活動：生徒会活動部</p> <p>啓発グッズ作成：機械系・電気系職員を中心とした全教職員</p>

<p>本年度の 取組内容</p>	<p>前年度の課題である「取り組みの充実と発展」のために、職業体験による成果物（線香・蜻蛉玉根付・サシェ・木彫りキーホルダー・蜻蛉玉ネックレス・香立て）をパッケージに入れ、配布する活動として以下のことを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生が特殊詐欺の「受け子」や「出し子」に関わらないように啓発活動をおこなう。キャンペーングッズの作製及び配布 ・令和元年 G20 大阪サミット開催に向けた交通総量抑制キャンペーングッズの作製及び配布 ・交通安全のキャンペーングッズの作製及び配布 ・防災啓発についてのキャンペーングッズの作製及び配布 ・血液型ごとに献血を呼びかけるキャンペーングッズの作製及び配布
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にない特色がある」「地場産業について学び、体験する機会が多い」（学校教育自己診断）60%以上 2 退学率 11%台に収める、1年生の進級率（60%以上）、学校全体の進級卒業率（70%以上） 3 全プロジェクトへの参加生徒 40% 4 1年次「啓発プロジェクト」プログラム作成・実施
<p>自己評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にない特色がある」「地場産業について学び、体験する機会が多い」（学校教育自己診断）（R1年度 54%）……………（△） 2 ・退学率を 11%台におさめる……………（R1年度 8.3%）……………（◎） <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の進級率……………（R1年度 70%）……………（◎） ・学校全体の進級卒業率……………（R1年度 82%）……………（◎） 3 全プロジェクトへの参加生徒……………（R1年度 34%）……………（△） 4 1年次「啓発プロジェクト」のプログラムを作成・実施できた。……………（○）
<p>次年度に向けて</p>	<p>本プロジェクトの活動は当初、一部の生徒に限られたものであった。しかし、支援の輪をさらに広げるために「ボランティア活動部」・「エコプロジェクト部」・「生徒会活動部」が中心になり、全校生徒が主体的にプロジェクトに取り組めるように工夫をする。近隣の小中学校とも協力し、本校生徒が職業体験で得た知識を小中学生に教え（教える立場に立つことによりさらに知識を深めることができる）、共に「啓発グッズ」を作製し、「啓発プロジェクト」を発展させる。また、以前から交流のある宮城県農業高校・岩手県立大船渡東高等学校及び被災地の高校との「コラボ・グッズ」を製作し、高校生による啓発活動を全国に広め、復興支援にもつなげる。他者の役に立つことで「自己有用感」を高め、活動を通して自校を誇りに思えるようにしたい。また、この経験で社会貢献意識の醸成を促し、生徒の進路実現につなげていきたい。</p>